

【事業名】シニア層の健康促進と自治体へつなぐ健康事業

(代表組合) 花王健保組合
(参加組合) 資生堂健保組合、ライオン健保組合、ADEKA健保組合、日油健保組合

【事業目的】コンソーシアムによる健保組合共通課題の解決 ①自治体のニーズを把握したうえで、生き活きとした健康状態のシニア層を「つなぐ」
②医療費及び前期高齢者納付金の縮減による「健保組合財政の安定運営」

【実施内容】

対象者：シニア層（63～74歳の被扶養者） 約600名

※被保険者は各健保がコラボヘルスで対応する

自治体

【自治体の健康づくりと連携したケア】 健康課題や保険者への期待内容の把握
(自治体約270市区町村へのアンケート&ヒアリング)

【トータルケア】 シニア層へ各地域情報として紹介・健康事業に実践（取り入れ）

【重症化層へのケア】 課題検証から導いたブロックごとのプログラム
(糖尿病・高血圧の要治療/要注意群への個別指導・医療機関受診勧奨)

【無関心層へのケア】 健診未受診者への健康度チェック 約300名
(問診アンケートと個別結果のオリジナルフィードバック)

健康層への維持・増進

自治体と連動
の健康事業

<連携>
かかりつけ医
事業者

健康への関心
行動変容
知識の習得

実践、振返り
・
次年度取組み
・
データ検証

データヘルス計画連動

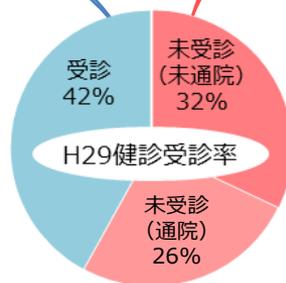
重症化予防
・
健康寿命の延伸

【データ分析】
健診
レセプト
・
状況把握
・
課題抽出

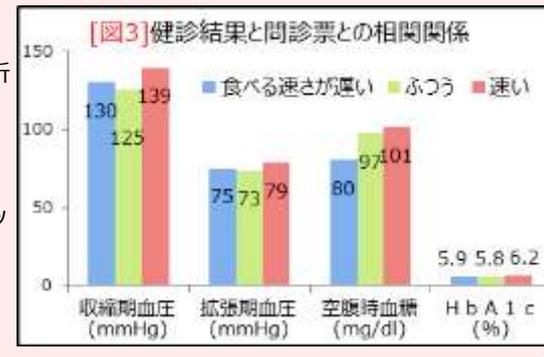
★共同事業を行うにあたりH29年健保の健診・レセデータより課題検証を実施【図1～5参照】

重症化者の抽出

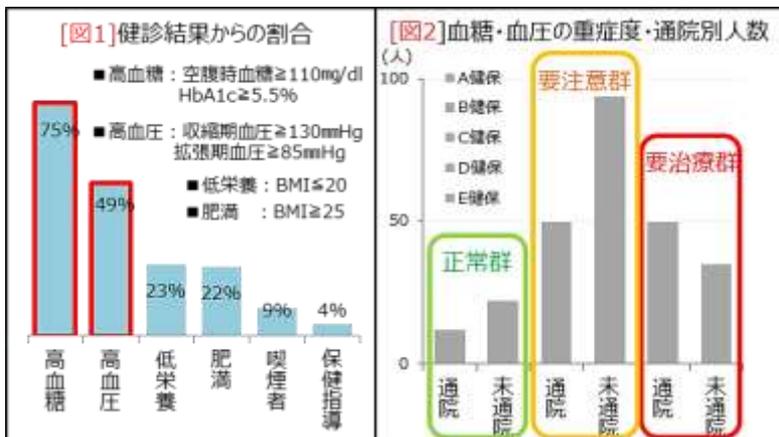
無関心層へのアプローチ



健診結果の数値と問診票の関係を分析し、問診アンケートにも含めることで、健診未受診者の健康状態の予測に繋げる。また、個別フィードバックにより回答率UPや意識・行動変容も目指す。



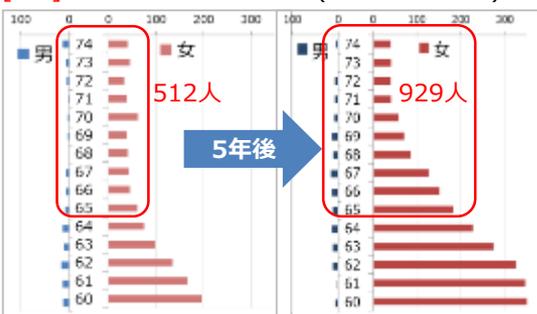
※ シニア層のH29年度健診結果より、健保組合が管理可能な項目の中で高血糖・高血圧者の割合が高く、優先的に取り組むべき課題であることが分かった。[図1] そして、糖尿病・高血圧の重症化予防等に着手するうえで、シニア層の人数・居住地や健保の人手ともに共同で実施するほうが効率的に事業を進めることができ、効果測定も偏りが少なく質の高い結果が得られる。



【事業の継続性】

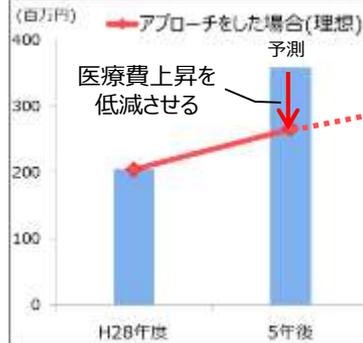
【図5】参加5健保の前期高齢者医療費総額

【図4】参加5健保の年齢構成（被扶養者の人数）



・前期高齢者の人数は、今後年々増える傾向にある。【図4】そして、医療費や納付金が健保組合の財政に与える影響は極めて大きく、将来においてもその影響は大きくなると考えられる。

※ シニア層（前期高齢者＋予定者）の医療費上昇を少しでも低減させ、健康寿命を1歳でも延ばすためには、一過性の事業ではなく長期的・継続的に展開できるアプローチと、その効果が健診結果やレセプト等のデータより検証できる仕組みづくりが重要である。また、健保組合から脱退した後も健康保持できるように、加入時から自治体を意識した健康事業を取り入れることも必要である。

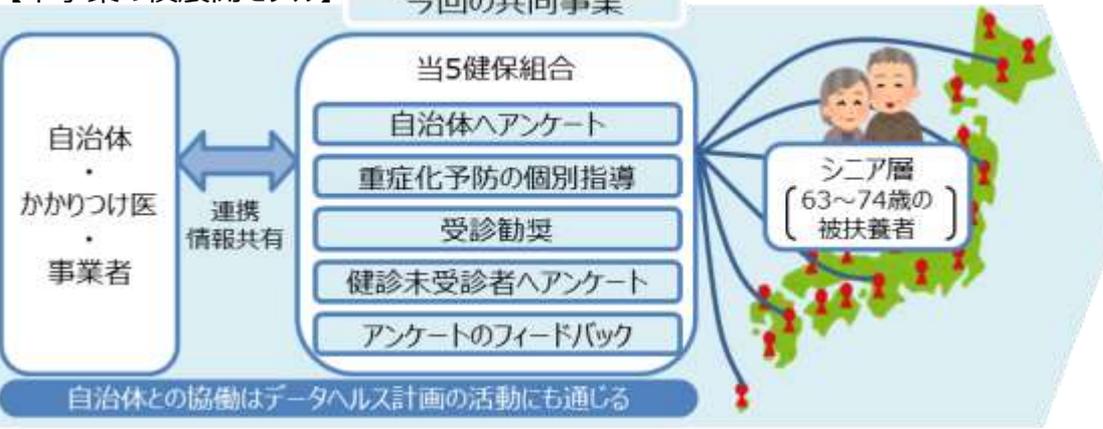


【効果測定】

* 各指標の数値目標を設定し、共同事業全体で健保の特性を比較しながら検証する

	自治体との連携	重症化予防 受診勧奨	健診未受診者の 意識・行動変容
アウトプット	・アンケート回収率 (自治体との交流)	・申込率・継続率 ・医療機関への受診 勧奨実施率	・アンケート回収率 ・個別結果フィード バック送付率
アウトカム	・回答自治体への調査 結果フィードバック率 ・シニア層への自治体 情報の紹介、送付率	・重症化予防実施後の 数値、行動改善率 ・勧奨後の医療機関へ の受診率	・アンケート送付後の 健診受診者の増加率 ・フィードバック後の健康 意識変容率
再分析	・健診結果、レセプトデータの再分析 ・課題【図1、2、3】の再検証		

【本事業の横展開モデル】



化学5健保 共同事業への 意気込み

- 【KAO】ひとつの健保では部分的活動も、協働展開することで全体最適な事業へとつなぐ
- 【SHISEIDO】多くの知恵やアイデアを結集し、創造性の向上や費用・運用面の効率性を追求する
- 【LION】他健保との情報連携により、質の高いPDCAを実現する
- 【ADEKA】健保が自治体との連携を継続することで、高齢者全体への目配せが可能となる
- 【NICHYU】緊密に連携してきた同業健保主導だからこそできる濃密な共同事業を！